



「こころとこころの握手講座」の様子。実際に体験した高校生からは「人前で話すのは苦手だったが、この雰囲気なら自分の伝えたいことを話やすい」等の感想が挙げられていました。

このほか市教委が新年度以降、新たに検討している施策として、
▼地域コミュニティの活性化を図るため市民向けに社会教育主事講習の受講を奨励し社会教育士の有資格者を拡充する事業や、
▼公民館活動・サークル活動の横断的な交流を図る「多世代交流コミュニティ化推進委員会」の設置、
▼乳幼児などに絵本等を贈呈する子どもブックライフ応援事業を拡大し、新中学1年生を対象とした「(仮称)サードブック事業」の実施など何点かの施策構想について説明・報告されていました。

今後の公民館活動のあり方について教育委員からは、「市総合文化会館は行事等の何か用事があるときに行くが、何もなくても市民が集えるような形になると交流の場として良いのでは」、「高校生が高齢者の方にスマホ教室をしたり、逆に高齢の方から青年に昔の話を伝える機会など世代間交流の機会が出来れば良い」などの様々な意見がだされました。

波岸教育長は「こころの居場所づくり」が大切。どのようなことができるのか、市の担当部局も横断するような形も含め考えたい、と話しました。また石垣市長は文化やスポーツなど趣味を通じた人と人とのネットワークが大事。そのためには文化会館の利用料も軽減する必要があるのではないかと。新年度は新たな教育大綱を策定するが、物理的・心理面に集いやすい街づくりを考えていく必要があると述べていました。

今回は根室高校から市行政の仕事や地域活動に関心の高い3年生6名も参加。「こころとこころの握手講座」(ZOOM)というワークショップを教育委員と一緒に体験しました。根室市は2022年から市民向けにコミュニケーション能力を高める講座「根室子どもピアサポート事業」を開催しており、そこで「こころとこころの握手講座」が行われているそうです。円形に座った参加者は、お互いに言葉を途中で遮ったり否定したりせず、相手の話をよく聞きながら、自分自身の考えをじっくりと深めていく、そうした一連の流れを体験していました。

市政方針に掲げる「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」ため、高齢社会の市民の生きがい作りの「通いの場」として重要な役割が期待される公民館。その公民館活動の今後のあり方をテーマに市長と行政の各担当部局、教育委員の皆さん方が意見交換をされました。

昨年12月5日、市長と教育委員会が地域の教育の課題や重点施策などを協議・調整する「根室市総合教育会議」が根室市役所内で開催されました。今回は根室の公民館活動の今後のあり方や次年度以降の教育行政に関する施策について、様々な観点から話し合いが行われました。

市水産加工振興センターが利用増

花咲港にある根室市水産加工振興センターは東海大学との産学連携による新たな商品開発をはじめ、漁業や市内の加工業者等と協力しながら様々な取り組みをすすめています。

ところで昨年度以降、この水産加工振興センターの機器の利用者・利用件数が増加しているそうです。

2023年度の利用は373件(924名)。過去3か年の平均に比べ、件数で約1.4倍、人数で1.8倍の利用増になっています。また2024年度(11月末)も利用件数・人数ともに昨年を上回り、年々増加傾向になっています。

こうした状況について運営する市側は、近年の漁獲低迷に対抗するため市内事業者が様々な取り組みを模索していると説明します。漁獲物の水揚げが不安定で、加工業者も原料を安定的に調達することが難しくなっています。さらに働き手が少なく、求人への応募も年々厳しくなっています。

こうした中、人手をかけずに効率的な製品を作るため、自社に無い水産加工振興センターの機器を活用して、新しい商品を開発しようとする事業者が増えている、とのことでした。



今年度、水産加工振興センターに導入したスチームコンベクションオーブン(右側)。老朽化した従来の機械(左側)より大型で約2倍の量を加工処理することが出来るそうです。

市民と「共に創る」まちを目指して 令和7年 根室市新年交礼会

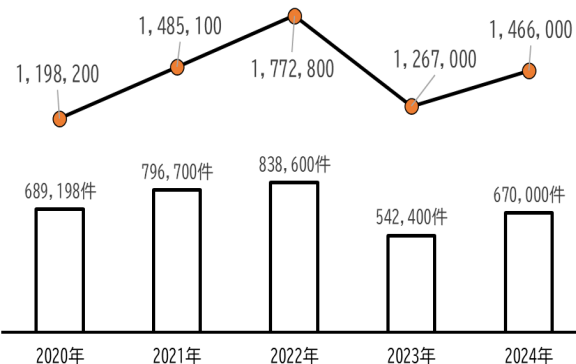
1月4日、根室市新年交礼会が市総合文化会館で開催され、行政機関や産業、経済団体など関係機関から160人ほどが参加しました。

新年のあいさつで石垣市長は能登地震や豪雨災害に触れながら、同じ半島である根室の防災・減災対策の強化とりわけ女性の視点を反映させるため市防災会議の女性委員の割合を44・4%に拡充したことや、また被災地支援の一環として、珠洲市のふるさと納税の収納事務を根室市が代理で実施した実績などを報告しました。

また2024年(1月~12月)のふるさと納税は速報値で受入件数67万件、金額で146億6000万円と5年連続で100億円を越えたそうです。

新年度から根室市の新たな「総合計画」がスタートしますが、その重要なテーマとして、市と市民とが対話しながら新しい価値を生み出す「共創」を掲げています。

根室市 ふるさと納税 受納状況の推移(1月-12月)



下の棒グラフは受け入れ件数、上の折れ線グラフは金額(単位:万円)。各数字は当時の市議会で報告された時点の「速報値」を記載したもの。

その手法として、ふるさと納税制度を活用した「(仮称)共創のまちづくり元氣ファンド」を新たに事業化するそうです。市長は「ワクワクする新たな地域づくりを提案したい」と抱負を述べていました。